まえがき

1998年4月から2000年3月までの2年間、山梨県教育委員会の現職教師派遣事業により、山梨大学大学院教育学研究科（修士課程）において研修の機会を得ました。この研修当時から、私が研究テーマとして「英語のテスティング」を選んだ理由は、教室でいかにコミュニカティブな授業を実践しようとも、中学校における英語学習のゴールとなる「高校入試問題」が旧態依然としたテスト問題であれば、現場教師の授業変革の努力はかえって生徒たちのためにならなくなってしまう、という問題意識があったからでした。しかし、今から10年前の日本におけるテスティング研究は、欧米に比べ相当に立ち遅れていて、私の研究課題を解決する手立てを見つけることはおよそ困難な状況であることがわかりました。そこで、修士論文では「ライティング・テスト」に特化して、従来の和文英訳方式とは異なる、ライティング能力測定のためのテスト開発に取り組むことにいたしました。

この研究に取り組む過程におきまして、それまで私が漠然とイメージしてきたコミュニカティブなライティング能力とは、バックマンのモデル（Bachman, 1990; Bachman & Palmer, 1996）における“organizational competence”に近いものであることと、その能力は“grammatical competence”と“textual competence”によって構成されるものであることがわかってきました。この気づきにより、自分の考えるライティング能力のモデルを測定対象とするためには、“grammatical competence”と“textual competence”の下位能力をいかに定義するかが課題であることがわかってきました。しかし、個人研究のレベルでは難しい領域であり、早稲田大学大学院の中野美知子先生に師事し、ご指導をいただくことになりました。社会人大学院生として、再び勤務と博士論文執筆という苦難の歳月を送ることになりましたが、科学

研究費補助金による助成なども受けることもでき、4年間（修士論文からは10年）をかけて“The development of a construct-based processing approach to testing: Task-based writing assessment for Japanese learners of English”という論文にまとめることができました。

本書は、この論文の内容を再構成し、実際に開発されたタスクに基づくライティング・テスト（Task-Based Writing Performance Test: TBWT）の信頼性・妥当性について検証した結果およびその後に行った実証実験の結果を報告することを目的として刊行いたしました。私の主張は、Skehanが提唱したテスト・パフォーマンス時における言語処理に関わる条件の操作によるテスト法（processing approach to testing）およびBachmanの主唱する構成概念に基づくテスト法（construct-based approach to testing）を発展的に統合させた「構成概念に基づく言語処理的テスト法（construct-based processing approach to testing）」というテスト開発法に置かれています。TBWTの実証実験には、5名の現職高校教師および15名の現職中学校教師に評定者として参画していただき、予備調査を含む5回のテスト結果分析という貴重な機会を与えていただきました。

まだまだ不十分な点も多いことは言うまでもありませんが、研究の成果として、これからの日本の学校におけるライティング指導に対して、1）ライティングによる運用能力評価において、評価対象となる能力を明確に示すことができた、2）タスクに基づくライティング・テストの具体的な開発手順を確立することができた、3）特別な訓練を受けたライティング評価の専門家ではなく、実際に教室で指導にあたる中学校・高等学校の英語科教員が、タスクを測定手段として行う信頼性・妥当性の高い運用能力評価を行うことができる評価基準・テスト方法を開発することができたことにより、ライティングの評価改善の面で多少なりとも貢献ができるのではないかと考えています。

本研究に関わり、ご校務等によりご多忙にも関わらず評定者として研究協

力をいただいた先生方ならびにTBWTを受験してくれた学生諸君に厚くお礼申し上げます。また、研究初期の企画段階から、絶えず暖かい励ましをくださった山梨大学の古家貴雄先生ならびに博士後期課程において親身な研究指導を行っていただいた早稲田大学大学院の中野美知子先生に衷心より感謝の意を表したいと思います。

なお、本研究の一部は、JSPS科研費 22520572 の助成を受けたものです。また、本書は、JSPS科研費 22520572, 24320109 の助成により刊行させていただきました。ここに記して、感謝を申し上げます。

2013 年 1 月

杉田由仁

日本人英語学習者のための
タスクによるライティング評価法
―― 構成概念に基づく言語処理的テスト法 ――

目　次

まえがき …… i

第1章　**序　論** …… 3

第１節　研究の背景　3

1. 1970 年代以降のライティング指導　3
2. 日本の学校におけるライティング指導　5
3. ライティングによる言語運用（performance）の評価　6
4. 英語教師によるライティングの評価　8

第２節　本研究の目的と内容構成　9

第2章　**先行研究の概観** …… 11

第１節　ライティング評価法の背景　11

1. Canale and Swain のライティング評価法　11
2. Bachman の言語能力評価モデル　14
3. Skehan の言語能力評価モデル　18
4. タスクに基づくテスト法に対する批判　21

第２節　構成概念に基づく言語処理的テスト法：
日本人英語学習者のためのタスクに基づくライティング・テスト　24

1. 構成概念に基づく言語処理的テスト法　24
2. 評価タスクの特徴づけ　25
3. 構成概念の定義　27
4. テストの実施手順　30

第3章　**評価タスクと評定尺度の開発** …… 36
第１節　開発ステージ１　36
1. タスク細目　36
2. Accuracy タスクの枠組みと内容　37
3. Communicability タスクの枠組みと内容　38
4. 評価タスクの適切さ　39
第２節　開発ステージ２　41
1. 全体的評価法　41
2. 分析的評価法　42
3. 単特性評価法　42
4. 多特性評価法　43
5. TBWT における評価法　43
第３節　開発ステージ３　44
1. 評定尺度の類別　44
2. 評定尺度の記述子　45
3. 評定尺度のカテゴリー数　47
第４節　予備調査　48
1. 研究目的　48
2. 研究方法　48
3. 分析結果　50

第4章　**評定尺度の改訂** …… 53
第１節　評定尺度の改訂作業　53
1. 改訂の作業手順　53
2. 結合パターン１　54
3. 結合パターン２　57
第２節　『評定の手引き（TBWT Scoring Guide)』改訂版の作成　60

1. 評定尺度の修正　60
2. ライティング・サンプルの抽出　64

第5章　**本調査 1** …… 70
第 1 節　研究課題　70
第 2 節　研究方法　71
1. 評価対象データの収集　71
2. 分析対象データの収集　71
3. 分析方法　71
第 3 節　結　果　72
1. 古典的テスト理論によるテストデータの分析　72
2. FACETS によるテストデータの分析　74
第 4 節　考察とまとめ　86
1. 考察と示唆　86
2. 本調査 1 のまとめ　89

第6章　**本調査 2** …… 90
第 1 節　研究課題　90
第 2 節　研究方法　90
1. 評価対象データの収集　90
2. 分析対象データの収集　91
3. 分析方法　91
第 3 節　結　果　93
1. FACETS による分析結果　93
2. プロトコルデータの分析結果　96
第 4 節　考察とまとめ　101

第7章　**本調査３** …… 104
第１節　研究課題　104
第２節　研究方法　105
1. 評定者グループの構成　105
2. 評定者トレーニングとセッションの内容　105
3. データの収集と分析　107
第３節　結　果　108
1. アンケート回答の分析　108
2. FACETS によるテストデータの分析　110
第４節　考察とまとめ　116
1. 考察と示唆　116
2. 本調査３のまとめ　118

第8章　**本調査４** …… 119
第１節　研究課題　119
第２節　研究方法　120
1. 調査対象者　120
2. データの収集と分析　120
第３節　結　果　122
1. 古典的テスト理論によるテストデータの分析　122
2. FACETS によるテストデータの分析　125
第４節　考察とまとめ　131
1. 考察と示唆　131
2. 本調査４のまとめ　134

第9章　**総　括** …… 135
第１節　研究内容の要約　135
第２節　研究の成果と教育的示唆　139
第３節　研究の限界と今後の課題　141

参考文献 …… 144

付　録 …… 155
『評定の手引き（初版）』　156
『評定の手引き（改訂版）』　163
評定の手引きに関するアンケート（本調査１）　179
評定者トレーニング・評定作業に関するアンケート（本調査３）　182
評定の手引き・評定作業に関するアンケート（本調査３）　186
評価タスク　190
ライティング・タスクに関するアンケート（本調査４）　201

索　引 …… 204